

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (現2年) 具体物の操作や問題文の意味を捉える手順を徹底して学習したことにより、学習の内容の定着が見られた。
- (現3年) 九九や筆算練習を繰り返したことで、数と計算領域において基礎的な計算技術が身に付いてきた。
- (現4年) 図形の領域の内容について定着率の向上が見られた。
- (現5年) 単元初めの基本的な問題については、解法(計算方法)を理解して答えを出すことができるようになった。
- (現6年) 基本的な計算力の向上が見られた。また、数のしくみや面積、体積に関する問題については正答率が上がった。

(2) 課題

- (現2年) 数と計算の内容において、かけ算、繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の計算の技能の獲得が不十分である。
- (現3年) テーブ図の理解が不十分であり、文章を読んで立式するのが難しい。単位換算が苦手である。
- (現4年) 測定領域の定着率が前年度に比べると低い。
- (現5年) 数の相対的な大きさや概数の表し方、図形の特徴等、基本的な知識が不足している。感覚的に解こうとする。
- (現6年) 基準量と比較量、平均の意味するところの理解が不十分なため、問題の図示や数量関係の立式が苦手である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	問題全体の校内正答率は、前年度より1ポイント下回った。目標値と比べて全体で0.2ポイント、(基礎が0.1ポイント、活用が0.8ポイント)上回っている。 各領域では、以下の領域で下回っている。 【数と計算】0.6ポイント 【図形】1.5ポイント また、以下の領域では上回っている。 【測定】0.7ポイント 【データの活用】10.4ポイント	【数と計算】約半数の問題が目標値を5ポイント以上上回っているが、相対的な数の大きさへの理解は低い。 【図形】基本的知識や作図技能が低い 【測定】概ね目標値を上回っているが、重さの単位という基本的知識が抜けている。 【データの活用】データの読み取りができており、目標値を3ポイント～10ポイント上回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度より10.4ポイント上回った。目標値と比べて全体で2.9ポイント、(基礎が1.9ポイント、活用が5.9ポイント)上回っている。 各領域では、以下の領域で下回っている。 【数と計算】2.3ポイント 【図形】1.3ポイント 【測定】3.7ポイント 【データの活用】では、8ポイント上回っており、全ての領域で目標値を上回る結果となった。
第5学年	学年が上がり問題難化のためか、達成率が区と同様昨年を5以上下回っている。 【数と計算】分数の計算以外は目標値を下回る。 【図形】面積の求め方は理解している。図形の特徴の理解が不十分で作図は目標値比20ポイント下回っている。 【変化と関係】答えを求めることはできるが、関係を立式できず10ポイント下回っている。 【データの活用】折れ線グラフを読み取り、考察することができている	【数と計算】計算問題の正答率は概ね目標値に達している。相対的な大小比較の設問は目標値を2～3ポイント下回る。 【図形】作図以外は目標値を上回っている。 【変化と関係】基準量を求める設問の正答率は高いが伴って変わる2つの数量変化を立式する設問では5割弱、2割と正答率が低い。 【データの活用】読み取りはできるが説明する設問は正答率が2割と低い。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも6.4ポイント下がった。活用は前年度よりも1.4ポイント上がっているが、基礎の部分が大きく下回り、8.1ポイント下がった。目標値を大きく下回ったものは以下の通りである。 【数と計算】4.9ポイント 億と兆 概数の表し方 小数 分数 わり算 計算のきまり 【図形】15.2ポイント 角の大きさ いろいろな形

第6学年	昨年度同様、正答率は区とほぼ同じ、達成率は区を3.8上回っている 【数と計算】分数や小数の計算はできるが、文章問題からの図示・立式が5ポイント下回っている。 【図形】面積・体積は求められ目標値を5ポイント上回っているが、図形の特徴理解が不十分で作図10ポイント、立式8ポイント下回っている。 【変化と関係】比例が理解できており目標値を大きく上回っている。単位換算問題のみ9ポイント下回る。 【データの活用】平均や割合の意味理解不足か記述問題は7ポイント下回っている。	【数と計算】13問中10問が(最大16ポイント)目標値を下回っている。 【図形】概ね目標値付近の値、面積を求める設問が目標値を上回っている反面、体積を求める設問の平均正答率は7.5ポイント下回っている。 【変化と関係】割合、基準量を用いる設問の正答率が目標値を1～2割以上下回っている。 【データの活用】読み取りはできるが、判断理由を記述する設問の平均正答率は12.5%と目標値を大きく下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも5.6ポイント下がった。活用は前年度とほぼ同じであるが、基礎の部分で6ポイント下がっている。目標値を大きく下回ったものは以下の通りである。 【数と計算】9.8ポイント 小数の計算 分数の計算 【図形】4.4ポイント 多角形と円 合同 【データの活用】11.7ポイント 円グラフ、帯グラフ 平均 ※記述問題が2問あったが、両方とも目標値を10ポイント以上下回っている。
------	--	--	--

(2) 分析(観点別)

各問題の正答率や誤答の状態を基に行った分析は、以下の通りである。

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年 ◎かけ算とわり算における計算方法は理解しており、正答率が高い。しかし、桁が増える、位取りに留意する等、複雑な手順の計算になると間違いが増える。 ◎正三角形の作図、はかりの目盛りを読む技能は身に付いている。 △「大きい数・小数・分数」において、十進位取り記数法や小数の相対的な大きさ、分数の数直線上での表し方について定着していない。既習事項の確認を定期的に行う必要があると考えられる。	4年 ◎□を使った四則計算においては、文章問題を読み、式を立てる活動ができている。 △「わり算」「長さ・重さ」の問題において、選んだ理由の説明ができず、無回答率が高くなっている。立式理由の説明や考えの表出に時間をとる必要があると考える。	4年 ◎計算等の基本的な問題や問題の意図がわかりやすいものに対しては意欲的に取り組む。 昨年に比べると既習事項を用いて新しい問題に取り組む姿勢が見られるようになった。 △考え方や説明をする学習活動では、意欲的に取り組む児童とそうでない児童との差が大きい。 △理由を説明する設問での無回答率が10%を超えている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年 ◎数のしくみや面積・体積を求める計算方法は理解しており正答率が高い。 △あまりの処理や計算順序等、出題頻度の低い問題の正答率は低い。 6年 ◎計算して答えを求める問題の正答率が高い。 △空位がある等応用的な計算や作図の正答率は低い。	5年 ◎選択問題では、正答を選ぶことができる。 △自分で説明する問題では、誤答が多く立式理由や知識理解が不十分といえる。 6年 ◎分数・小数・整数の基本的なしくみは理解しており、選択問題で正答を求めることができる △0を含んだ平均値を求める等の応用問題や記述問題、図示や立式の正答率は低い。	5年 ◎基本的な計算問題に対しては意欲的に取り組んでいる。 △意欲的に問題に取り組む児童とそうでない児童との差が大きく開いている。 6年 ◎友達の考えを取り入れて図示したり式変形したりと自分の考えを表そうとする姿勢が多く見られる。 △計算技術習熟や十分な問題理解まで集中力持続が難しい児童が見受けられる。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1)低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1年生：計算カードを使って、繰り返し計算練習することを徹底して1年間続けることにより、指を使わずに繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算が確実にできるようにする。 2年生：授業の初めに、マス計算や筆算練習に取り組みせることにより、確実に計算する力を身に付けることができるようにする。	1年生：長さ・広さ・かさの学習において具体操作を一人一人行うことで、比べ方の基礎を身に付け、適切な量感と量のくらべ方を見出すことができるようにする。 2年生：長さ・かさの学習において、具体物を使って学習することによって、目的に応じた単位で量の大きさを表現したり比べたりすることができるようにする。	1年生：100玉そろばんや計算カードの検定に年間を通して取り組むことで、目標に向かって努力すると、できるようになるという体験を積み重ねるようにする。 2年生：授業の初めにマス計算に取り組みせることで学習に対して見通しや計算力が伸びている実感をもたせるようにする。

(2)中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3年生：基礎知識、計算技術、作図の定着を図るため、定着率の確認および繰り返し復習する時間を確保する。 4年生：基本的知識や計算技術の定着を図るため、定期的な復習および授業前の3分程度で取り組めるプリント等を活用したウォーミングアップを行う。	3年生：授業中に自分の考えを伝えたり話し合いで友達の考えと自分の考えを比較したりする時間をとる。発表やノートへの記述等、表現する機会を増やす。 4年生：発展学習の際には、既習事項を活用できるように振り返る時間を取り、見通しをもたせる。理解を深めるため、授業中に自分の考えをノート等に表現できる時間を取り、児童同士、自分の考えた解き方を説明したり聞いたりする活動を取り入れる。	3年生：授業前のウォーミングアップや授業後に数値や文言を変えた問題を解く等、「分かった」ことを「使う」活動につなげる。 4年生：感想や理解した内容や考えを書かせることで、その時間での学習内容を振り返らせる。ウォーミングアップで既習内容の定着の実感をさせ、意欲向上を図る。

(3)高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生：計算問題の習熟を図るため、基礎的な問題に加え応用的な問題を含めた様々な形の計算問題をウォーミングアップで扱う。プリント等で定着率の確認を適宜行う。 6年生：計算手順の基本が応用できるよう、ウォーミングアップで様々な形の計算問題を行う。 「割合」の理解を深めるため、文章問題を図示したり、具体的数値での類題を単元が終わった後も繰り返す。	5年生：自分の考えをノートにまとめたり友達と伝え合ったりする時間を取り、考えたことを形に残す活動を増やす。 6年生：図示したり立式したりする活動を増やし、理解したことを視覚的に表す活動を増やす。	5年生：学習内容の振り返りを書くことで理解を深め、次時にそれを見返し学習に使えるかどうか考えるための手立てとする。また、既習事項を用いたことを評価し、主体的に問題を解こうとする姿勢を育む。 6年生：既習事項を使えるかどうか繰り返し問うことで、理解していることを使い問題を解決する必要性を感じさせる。既習事項を用いたことを評価し、主体的に問題を解こうとする姿勢を育む。